

研究課題名	A病院におけるRapid Response Systemに対する職員の意識調査
研究機関名	日本赤十字社 武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センターICU /RRS部会 氏名 中村真依子
研究期間	(西暦) 2023年12月 ~ (西暦) 2024年3月
研究の意義・目的	<p>A病院では2017年よりRapid Response System [RRS] を導入し、院内での予期せぬ心停止・ICU入室・死亡を予防することを目的に活動してきた。当院のRRSにはRRSコールと院内ホットラインの2種類が存在し、RRSコールの目的は、患者の変化に気づき、10分以内に医師による対応を開始することで、患者の重篤化を防ぐことを目的としている。一方、院内ホットラインは、より重篤で生命の危機に瀕している状況の患者に対し、緊急時対応に慣れたチームによる効果的な速度対応の提供を目的としており、これらにはそれぞれ要請基準を設けており要請方法も異なっている。</p> <p>しかしながら、これらの2つのシステムを導入して約6年が経過した現在でも、RRSコールおよび院内ホットラインを起動する際の要請基準や、起動後の要請記録への記入など、RRSの運用に関する手順が院内に浸透されておらず、病院内のスタッフのRRSに対する認知や理解といった意識が低いことが予測される。その理由として、院内ホットラインで対応しなければならないような院内心停止またはそれに類似するような症例であっても、RRSコールで要請されるといった事象が発生していることが挙げられる。</p> <p>A病院では、RRSコール要請時には、救命科医師のPHSへ直通でつながるようになっており、また、要請現場に向かうのも基本的にはRRSコール担当の救命科の医師1名である。一方で、院内ホットラインでは院内の全館放送で要請がなされ、複数の救命科医師・救急外来看護師が現場に駆けつけるシステムとなっている。つまり、要請現場に駆けつける時間と医師や看護師といったマンパワーに圧倒的な違いがあるのである。この両者の使い分けが適切になされないと、患者への初期対応が遅れ、患者に不利益を生じてしまう恐れがある。このような両者の違いについて院内全スタッフに周知するために、新入職者に対しては入職の際に一斉にオリエンテーションを行なっている。また、院内のRRSの運営を取り仕切るRRS部会より、定期的に院内情報共有システム「デスクネッツ」を用いてニュースレターと称して啓蒙活動を行なっている状況にある。</p> <p>そこで、これらの啓蒙活動を行なってもなお、十分に全スタッフに周知されていない現状が予測されるため、A病院のRRSに対する職員の意識調査することにより、RRSを運用する上で、病院内スタッフへのRRSに対する理解とシステムの運用の弊害となっている要因など病院内のスタッフのRRSに対する意識を明らかにすることで、今後の課題を見出す必要があると考えた。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>【方法】A病院に勤務する院内情報共有システム「デスクネッツ」を閲覧できる全職員を対象とした無記名質問紙調査</p> <p>【質問紙調査期間】2023年12月1日～2023年12月31日</p>
<p>①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)</p> <p>②利用し、又は提供する 試料・情報の項目</p> <p>③利用する者の範囲</p> <p>④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称</p>	<p>①Rapid Response Systemに対する職員の意識の実態調査目的</p> <p>②研究参加者の基本情報(職種、所属、職種経験年数、当院勤続数)、RRSコールについて(これまでにRRSコール要請をした経験があるか、これまでにRRSコール要請をしようかどうか悩んだ経験はあるか、当院のRRSコール要請基準について自身でどの程度理解していると思うか、当院のRRSコール要請の方法について自身でどの程度理解していると思うか、当院のRRSコール要請後の要請記録について自身でどの程度理解していると思うか)、院内ホットラインについて(これまでに院内ホットラインを要請した経験があるか、これまでに院内ホットラインを要請しようかどうか悩んだ経験はあるか、当院の院内ホットライン要請基準について自身でどの程度理解していると思うか、当院の院内ホットラインの要請方法について自身でどの程度理解していると思うか)、Rapid Response System全体について(当院のRapid Response Systemについてこれまでに院内で具体的な説明や指導を受けた経験があるか、当院のRapid Response Systemについて病院職員内で十分に認知されており適切な運用がなされていると思うか、そのほか当院のRapid Response Systemについて疑問に思うことや改善してほしい点など)。</p> <p>③得られた全ての質問紙のデータ</p> <p>④中村 真依子(実践報告者本人)</p>
問合せ先	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センターICU/RRS部会 氏名 中村真依子</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>